



1 華やかな姿で式辞を聞き入る新成人たち／2 実行委員長の廣瀬さんが会場での注意事項を呼びかける／3 上映されたスライドショーで懐かしい小中学校時代を思い出し笑顔に／4 ふるさと交流館さくらの湯の入浴チケットが全員に配布される／5 今年の実行委員会の皆さん／6 ゆるキャラのりとんと撮影を楽しむ／7 式典後も再会を懐かしみ会話が弾む／8 スマートフォンで自撮りを楽しむ／9 代表して長谷川魁斗さん、高野佐奈さんが記念品を受け取る

の力を合わせれば大きなことができます。主体性を持ち、手と手を取り合って、温か笑顔の東温市、実現のため、共に頑張りましょう」と式辞を述べました。

新成人を代表して廣瀬里海さん（西岡）は「今まで支えてくれた家族や友人、時には厳しく指導してくださった恩師の方々、私たちの成長を温かく見守ってくださっている地域の方々、感謝しています。自分の言動に責任を持ち、立派な社会人になれるよう、向上心を忘れず精進して参ります」と決意を述べました。

新成人たちは、真つすぐに前を見つめ、未来への決意を新たにしました。

式典では、小中学校時代が思い出されるスライドショーや、愛媛プロレス団員5名からのビデオメッセージが上映され、新成人たちは、温かい激励に聞き入りました。

新成人219人
晴れの門出で決意新たに

「平成31年東温市成人式」が1月13日、市中央公民館で行われ、新成人が大人への一歩を踏み出しました。

今年の対象者は、市内在住または本市出身の1998年4月2日～99年4月1日生まれ348名。このうち219名（男108名、女111名、参加率約63%）が、晴れの日に迎えました。

式典の朝、スーツや紋付きはかま姿の男性や、色とりどりの振り袖で着飾った女性たちが次々と会場に到着。友人との再会に喜ぶ新成人たちで会場は華やかな雰囲気になりました。

式典で加藤章市長は「成長を支えてくれました。ご両親やご家族、そして恩師の先生への感謝の気持ちを忘れないでほしい。本日の式典は、皆さんがアイデアを凝らして作り上げたもの。色々な意見を出し合い調整し、一人ひとり

夢に向かって、大きく羽ばたいてほしい

式典での国歌斉唱では、サブライズゲストとして、市観光大使の帆風成海さんと四宮貴久さん（坊っちゃん劇場）が登場。新成人たちと一緒に「君が代」を歌いました。

お二人は新成人の前に人生の先輩として、「皆さんが持っている夢を諦めず、大きく羽ばたいてください」とエールを送りました。



トークで会場を賑わす観光大使のお二人

特集 成人式 20歳の決意

晴天に恵まれた1月
東温市で育った若者たちが
大人への第一歩を踏み出しました
未来と向き合った新成人を特集します

新成人 意見発表



杉原 雅章さん
川内中学校卒業生

これまで支えてくれた家族や恩師、地域の人たちに感謝して、それぞれの未来を誓いました

中学校を卒業して、早5年が経とうとしています。学生時代を共に過ごした仲間と成人式で再会することができ、とてもうれしく思います。また、勉学や仕事の関係で参加できなかった方にも、成人式であったことなどを話してみようか。

私は高校卒業後、就職の道を選びましたが、学生の気分が残ったまま社会に出てしまったため、壁がぶつかりました。それは、自分ができることとできないことの判断を確にできなかったからです。

私は、左手にハンディキャップ

があります。自分ができると思っただけで、周りに人に心配させてしまったり、できないことを言えずに、周りの人に迷惑をかけたりにして、悩む日々が続きました。ある日のこと、上司の方に「できること、できないことは、自分が一番分かるはず。それを他の社員にも伝えないといけないだろう」と言われました。

自分は、自分ができないことを学生の気分で行うとしてしまいい、他の社員の方に心配させていたのだと気付きました。そして、どうかを考えたとき、自分のことを自分が一番分かっていないんだと気付きました。どうしたら他の方へ伝えることができるのかと思ひ、

一から自分ができること、できないことを追求しました。

それを他の社員の方に伝えました。そうすることで、自分のことを理解してもらえて、自分にできる仕事を一緒に探してくださいました。

今ではほんの少しだけど、会社に貢献できているのかと思ひます。今後も自分にできることは、物事を一つひとつ考えてやっていきたいです。そして、仕事を任せてもらえるように取り組んでいきたいです。

20年間を振り返ると、両親や先生、周りのたくさんの人に支えられていることに気付いていながら、直接「ありがとう」と言えていない自分がいました。今日は少し勇気を出して、両親や先生に「ありがとう」と伝えたいです。

これからは、一人の大人として今まで迷惑をかけた分、人を守れるような思いやりのある大人になっていきたいです。

大西ひろかさん

重信中学校卒業生

中学校を卒業して、早5年の月日が経ちます。共に過ごした仲間とこの成人式という場で再会することができ、嬉しく思います。中学校を卒業し、社会へ出て立派に働いている人、大学や専門学校で学びを深めている人と、それぞれの夢や目標に向かい、みなさん努力を続けていることかと思ひます。

私は今、短期大学で栄養について学んでいます。4月からは社会に出て、たくさんの人々に安心して安全な食事を提供する仕事に就きます。今の私があるのは、家族はもちろん、友人、先生、地域の方々など、たくさんの方々の支えがあったからだと思います。

ます。今までの恩をこれからの活躍で返せたいと思ひます。

さて、私たちは二十歳の成人式を迎え、これからは自分自身の行動に責任と自覚を持たなければなりません。これからたくさん経験を積んでいき、一社会人として責任のある行動をとり、社会に貢献できる大人になりたいと思ひます。

最後になりましたが、本日は私たちのためにこのように盛大な式典を開催していただきありがとうございます。無事東温市で成人式を迎えることができ、家族、友人、先生、地域の方々への感謝の気持ちでいっぱいです。皆さん、本日は久しぶりに再会した友人や恩師の方々と一緒に有意義な時間を過ごしましょう。



4月から勤怠管理システムの仕事に就きます。社会人1年目になるので、初めてのことがばかりですが頑張りたいです。



◇中野 祐樹さん

県内の大学で応用化学(工学部)について学んでいます。人の役に立つ仕事に就いて向上心をもって頑張りたいです。



◇山崎 菜さん

パティシエとして焼き菓子やケーキの仕上げ、接客に携わっています。後輩もできるので、しっかり教えられる先輩になりたいです。



◇小山 理沙さん

新成人の抱負

教育学部で学んでいます。子どもにも携われる仕事を目標としています。楽しんで1日1日を一生懸命過ごしていきたいです。



◇武智 藍さん

県外の大学で建設について学んでいます。安心して暮らせるまちづくりを通して、よい家庭を築くお手伝いがしたいです。



◇赤西 秀太さん

県外の大学で観光学部に入り、CAを目指しています。夢に向かって目の前の一歩ずつ頑張りたいです。



◇吉田 野の花さん

●98年4月～99年3月にあった出来事

- 4月 明石海峡大橋開通
- 6月 FIFAワールドカップで日本代表初試合
- 7月 第83代内閣総理大臣に小淵恵三氏が就任
- 8月 Microsoft Windows 98日本語版が発売
- 10月 任天堂ゲームボーイカラー発売
- 1月 携帯電話の番号が11桁となる

●流行/世相など

- ・ノストラダムスの大予言が話題に
- ・アメリカでgoogle(グーグル)設立

●流行/音楽など

- Timing(ブラックビスケッツ)/夏色(ゆず)/終わりになき旅(Mr.Children)/Automatic(宇多田ヒカル)



旧友との再会を懐かしむ新成人

Message メッセージ

多感な中学時代を支えてくれた恩師のお二人
希望に溢れた新成人へ、激励の言葉



日野省吾先生 (川内中3年時主任)

立派に成人されたみなさんを見てとても嬉しく思います。これからいろいろなことが皆さんを待ち受けています。良いことも悪いこともすべて自分にとってプラスになるはずです。ご活躍を楽しみにしています。



一色智也先生 (重信中3年時担任)

成人の日おめでとうございます。これから辛いこともたくさんあるかと思いますが、無駄なことなんて一つもありません！それぞれのステージで活躍することを祈っています。

支えに感謝し目標に進む

式典での意見発表や会場でのインタビューでは、新成人の皆さんは「感謝の言葉」を口にし、両親への感謝、恩師への感謝、地域への感謝と、それぞれの思いを込めていました。これまでの振り返り、大人としての一歩を踏み出す決意を新たにしました。これから更に目標に向かって努力を惜しまず、前に進んでいくことでしょうか。

新成人を支える地域の後押し

目指していた仕事に就きたい、親孝行したい、頼られる存在になりたい―新成人たちにはそれぞれの目標があります。

総務省の人口推計によると、2019年1月1日時点の全国の新成人は125万人で、前年と比べると2万人の増加。男性は64万人、女性は61万人で、男性が女性より3万人多くなっています。総人口に占める割合は0.99%で、9年連続で1%を下回っており、今後も新成人者数は減少していくものと見込まれています。

今後も少子化が進めば、生産年齢人口や労働人口の減少による影響など若い世代への負担は確実に増えていきます。都市部への人口流出で地方の人口は激減し、地域コミュニティの維持や活発な経済活動が困難になるといわれています。一方で、インターネットの普及により世界との距離が縮まり、新しい職業が話題となるなか、地方の良さを再認識し、故郷での生活を希望する若者が増えているようです。地域を維持するため、これまでのやり方を見直し、時には「昔からやっているから」という約束事を変えていくことも必要かもしれません。

地域を思い、自らの目標に向かって努力を重ねていく新成人たち。彼らの夢や希望を叶えるためには働き方改革や地域の支援など、先人から受け継がれた東温市をさらに良くし、次代に継承していくという社会全体の後押しが必要です。

(特集おわり)